

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年2月15日

事業所名 伊東市立さくら園

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	1	1	0	・仕切りをを作ったり、和室を使ったりしている。	・特に訓練室があるわけではないので、机上の訓練や粗大運動活動を行うための部屋が別々にあると良い。また出入り口等、完全にバリアフリー化されているわけではないので改善されると良い。
	2	職員の配置数は適切である	1	2	3	0		・子どもの入所人数に対しては職員の数には足りているが、各グループや教室などを考えると正規保育士がもう1人必要である ・人手が足りていない
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	1	2	0	・部屋数が少ない中で、活動ごとに仕切りをおいたり、部屋を変えたりしている	・活動ごとに活用できる部屋数があることで、構造化できると考える
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	1	0	0	・職員間で色々調べたり、アイデアを出しあったりしながら、子どもたちが楽しく快適に過ごせる様に手作りで整備し工夫している。 ・子ども1人1人から過ごしやすいように感触マットや、1人になれる空間を用意したりなど工夫をしている。	・自傷行為で床に頭を打ちつけたりするお友達もいるので、マットなど柔らかい素材を敷くなど。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	0	0	0	・月1回ケース会議など周知をしながら1人ひとりに合う保育をするために会議を開いている。	・業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）を今後も職員が広く参画していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	0	0		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	0	2		・業務改善ができることがあるかの、定期的な見直しをこれからも行う。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	0	3	0		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	0	0	・様々な研修への参加。 ・不定期、定期にかかわらず、研修に参加している。 ・なかなか研修ができない時もあるが、職員会議の中でテーマを決めて、資料をみんなでみたりしながら、勉強するようにしている。	
10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	0	0			

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月15日

事業所名 伊東市立さくら園

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	0	0		
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	0	0		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	0	0		・適切な支援や活動のスキルを増やしていく
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	0	0	・各グループ内で話し合い、個々の発達に応じた支援の提供ができるよう工夫している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	0	0		
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	0	0	0		
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	0	0	・職員間での子どもたちの様子の共有や、活動終了時に記録を取っている。 ・グループ内で、誰につくかなど週ごとに決めている。 ・前日の行動や過ごし方など保育士で共有している。	・グループで決めたら、話したりしているが、自分の思いなどで、うまくいかないこともあるので、もっと細かく話していく必要がある。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	0	0		・支援終了後に必ず打ち合わせをしているわけではないので、できる限りその日にあったことを話し、職員間で共有していく様にする。 ・グループで決めたら、話したりしているが、自分の思いなどで、うまくいかないこともあるので、もっと細かく話していく必要がある。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	0	0	・職員間での子どもたちの様子の共有や、活動終了時に記録を取っている。	・慌てずにゆっくり、大きな声を出さないように心がけて支援して行く。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	0	0		
21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	0	0			
22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	0	0	0			
23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	0	0	0	・現在医療ケアの子がいない。		

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年2月15日

事業所名 伊東市立さくら園

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6	0	0	0	・現在医療ケアの子がいない。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	0	0		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	0	0		・コロナや感染症によるが、小学校などとも関わりが持てるようにしていけたら良い
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	0	0		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	6	0	0	0	・普通園と隣接しているため、行事や通常の保育でも関わりを持つようにしている。	・隣接する保育園ともっとできる限り交流を持ちたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	0	0	1		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	0	0	・登降園時に、家での様子を聞いたり園であったことを話したりして、共通理解できるようにしている。 ・保護者に寄り添い悩みなど一緒に考えて支援の仕方を考えたり、悩みを聞いたり信頼関係を築きながら取り組んでいる。	・精神的にある保護者などもあるため、様子を見て言葉をかけたり対応の仕方を工夫したり、職員で話し合う時間が必要。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	1	0	1		・ペアトレーニングなどを入れていけるといいと思う。	
保護者への説明責任	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	0	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	0	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	0	0	・日々大変な保護者もいるため、保護者の気持ちに寄り添って対応している。	・精神的にあまり話しかけてほしくない保護者もいるので、様子を見たり工夫してながら対応する。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	0	0	1		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	0	0		

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月15日

事業所名 伊東市立さくら園

等	チェック項目	評価				工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
等	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	0	0	・クラスだよりや園だよりを発行し、子供の様子等を伝えている	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	0	0		
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	0	0		・障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をさらに行っていく必要がある。
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1	1	1	・コロナ禍で園庭開放は無かったが、就園前の教室を設けている。	・保護者を招いての行事はあるが、地域の人を招いての活動は難しい
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	0	0	0	・危機管理に関して、定期的に訓練している。	・緊急時のマニュアル等を定期的に個でも見直し、引き続き訓練を行っていく。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	0	0		・上履きを脱いでしまうお友達だちもいるので、繰り返しながら上履きに慣れるように繰り返していく。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	0	0	0		
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	2	0	0		
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	0	0	・ひやりはつとをあげ、職員間で共有。対応策を考えて次につなげている。 ・ヒヤリハットがあったあ場所を改善したり危険箇所を見に行ったりし対応している。	
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	0	0		
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0	0	0		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。